



2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

(2025年4月1日～2025年12月31日)

2026年2月10日
ジーエルテクノホールディングス株式会社

東証STD 255A

01.	エグゼクティブサマリー	… P. 3
02.	決算概要（2026年3月期 第3四半期）	
	連結	… P. 7
	セグメント別	… P. 9
03.	業績・配当予想（2026年3月期）	… P. 20
04.	APPENDIX	… P. 25

01. エグゼクティブサマリー

2026年3月期 第3四半期

増収・増益

売上高

32,996 百万円

〔 前年同期比 +6.4% 〕

主に半導体事業が売上を牽引し、前年同期比増収

営業利益

4,633 百万円

〔 前年同期比 +2.6% 〕

前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更や
物価上昇等のコスト増の影響を受けつつも、売上拡大に伴い、前年同期比増益

2026年3月期 業績予想及び配当予想

通期業績・配当予想は前回発表時から変更はなく、
前期比**増収・増益・増配**の見込み

売上高

44,700 百万円

〔 前期比 +3.3% 〕

営業利益

6,680 百万円

〔 前期比 +5.3% 〕

配当予想

111 円

〔 前期比 +4円 〕

半導体事業

生産能力増強に向けた拠点拡大が順調に進行

海外

ベトナム・ニンビン省の新工場建設に向けて準備中

目的：半導体需要の拡大に伴う供給体制強化と生産ネットワーク再構築

工場新設により見込むことができる将来効果

✓ 生産能力の増強

完全稼働時における**石英製品**の生産能力は年間売上高ベースで**30億円**以上

✓ アクセス強化および柔軟かつ迅速な市場ニーズへの対応

- 米国の対中半導体規制をふまえ、**供給網の多元化**と**貿易リスク**への体制強化
- 輸送コストの削減**および**環境負担の低減**
- 豊富な労働力**と**人件費のコストメリット**活用による価格競争力の強化

工場建設に向けた進捗状況

2025年12月、ベトナム・ニンビン省現地にて地鎮祭を催行。2026年1月より本格的な建設工事を開始。

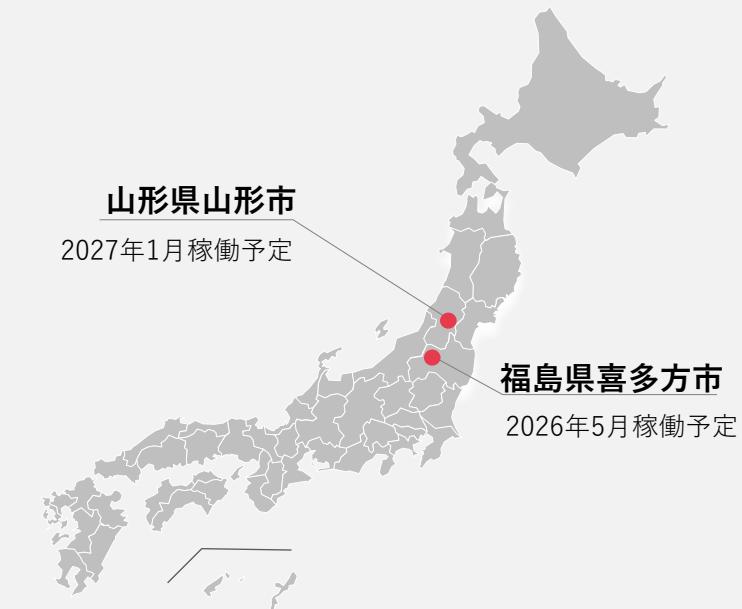


ベトナム新工場の地鎮祭の様子

国内

2件の生産棟の稼働に向けて準備中

火加工製品の生産能力増強(山形市)及び機械加工の自動化(喜多方市)を推進



山形県山形市

2027年1月稼働予定

福島県喜多方市

2026年5月稼働予定

分析機器事業

増収・増益

- ✓ 消耗品を中心に国内・海外ともに販売が好調に推移し、増収・増益

売上高

14,285 百万円

〔 前年同期比 +2.2% 〕

営業利益

1,317 百万円

〔 前年同期比 +3.5% 〕

半導体事業

増収・増益

- ✓ 豊富な受注残高を背景に工場稼働率が高水準で推移し、増収
- ✓ 前年度の棚卸資産計上基準の変更や物価上昇の影響があったものの、売上拡大により増益

売上高

17,409 百万円

〔 前年同期比 +10.5% 〕

営業利益

3,286 百万円

〔 前年同期比 +3.3% 〕

自動認識事業

増収・減益

- ✓ 立体駐車場向け・入退室管理システムの受注が堅調に推移し、増収
- ✓ 主に低利益率案件が増加した影響を受け、減益

売上高

1,301 百万円

〔 前年同期比 +0.9% 〕

営業利益

9 百万円

〔 前年同期比 ▲75.6% 〕

02. 決算概要（連結）

2026年3月期 第3四半期

増収・増益

- 売上高は、主に半導体事業の豊富な受注残高と工場の高稼働に加え、分析機器事業の堅調な推移が寄与し、前年同期比6.4%の増収
- 営業利益は、前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更による影響や物価上昇等のコスト増が重なったものの、売上拡大により、前年同期比2.6%の増益

単位：百万円	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比	
	実績	売上比率	実績	売上比率	増減率	増減額
売上高	31,014	-	32,996	-	+ 6.4%	+ 1,982
売上原価	20,008	64.5%	21,600	65.5%	+ 8.0%	+ 1,592
売上総利益	11,006	35.5%	11,396	34.5%	+ 3.5%	+ 389
販管費	6,492	20.9%	6,762	20.5%	+ 4.2%	+ 270
営業利益	4,513	14.6%	4,633	14.0%	+ 2.6%	+ 119
経常利益	4,913	15.8%	5,230	15.9%	+ 6.5%	+ 317
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,911 ^{※1}	9.4%	3,523	10.7%	+ 21.0%	+ 612

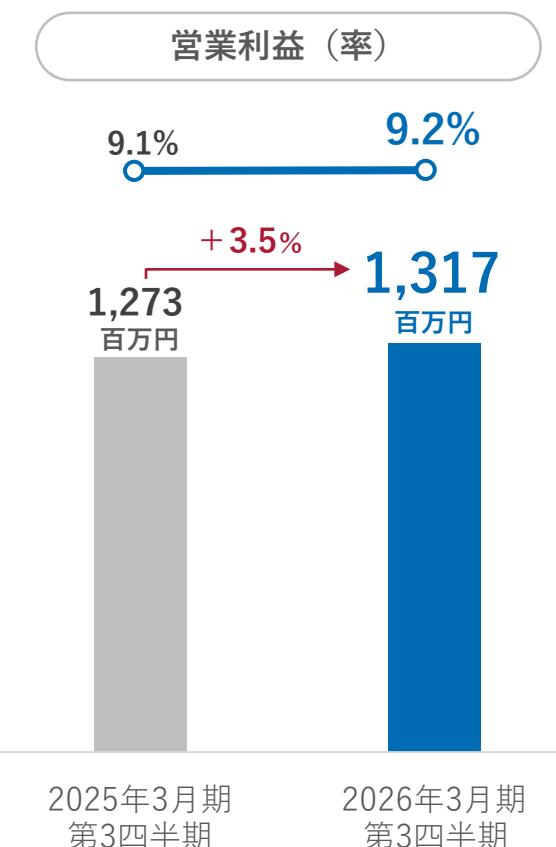
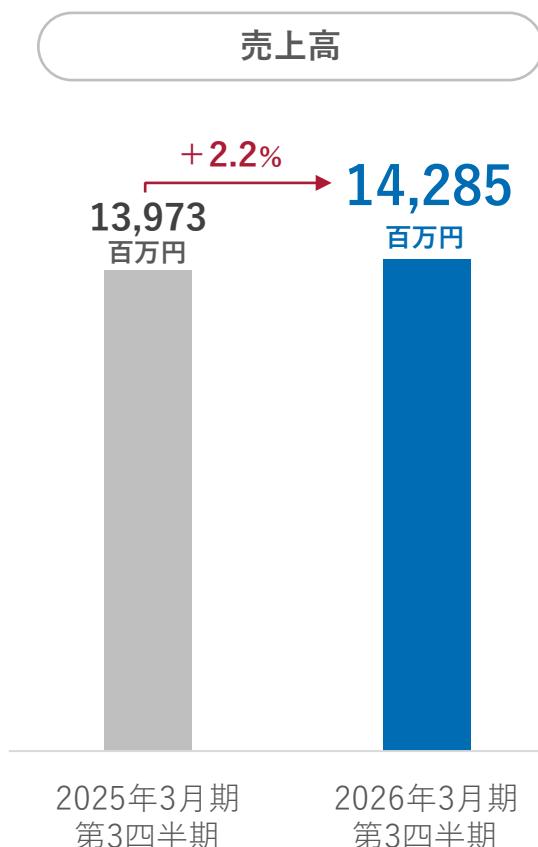
※1 経営統合前の上期は一部が非支配株主に帰属

02. 決算概要（セグメント別）

2026年3月期 第3四半期

増収・増益

- ・ 売上高は、国内・海外販売ともに消耗品が堅調に推移し、前年同期比2.2%の増収
- ・ 営業利益においても、3Qの自社消耗品の販売が好調だった関係で、2Q終了時点よりも改善し前年同期比3.5%の増益



要因・その他

国内 売上高比率 76.0%

装置類: 前期に集中した水質分析用自社装置の更新需要が一巡したほか、当3Qに計上された他社装置の販売案件数は前期に及ばず。

消耗品: 幅広い製品群が好調。特に、**環境分析や製薬企業向けを中心**に好調に推移。消耗品を中心に、安定成長が継続。

海外 売上高比率 24.0%

- ・ **中国経済の停滞の影響を受けつつも、その他の地域においては概ね順調に推移。** 液体クロマトグラフ用カラムを中心に消耗品の売上が堅調に推移した他、その周辺機器の販売も売上に貢献。

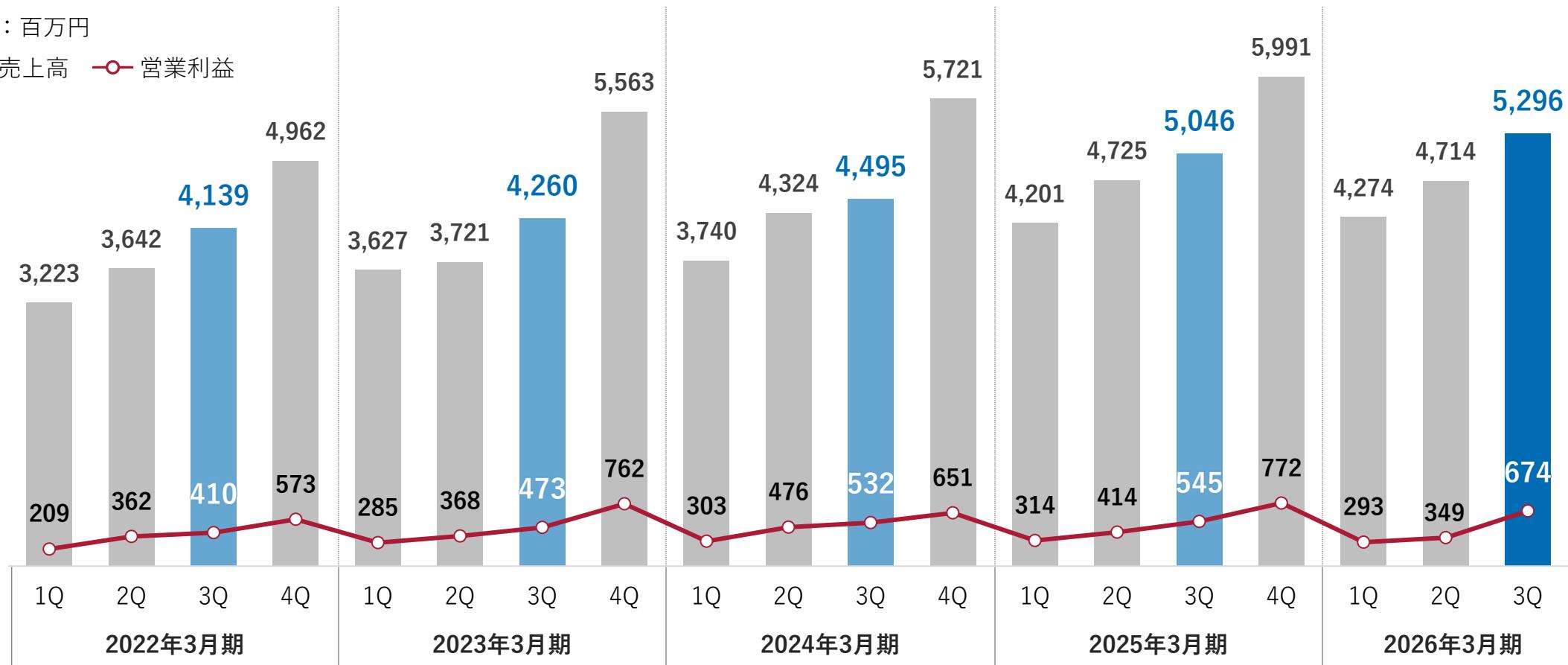
海外においては、前年同期の特需の反動が影響した北米が低調に推移するも、
その他地域における販売体制の拡充が起因し、国内・海外ともに増収

単位：百万円	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比		2026年3月期 第3四半期 構成比
			増減率	増減額	
国内	10,720	10,857	+1.3%	+136	76.0%
海外	3,252	3,427	+5.4%	+175	24.0%
北米	446	384	▲14.0%	▲62	2.7%
アジア	2,034	2,128	+4.6%	+93	14.9%
その他	771	915	+18.6%	+143	6.4%
合計（国内+海外）	13,973	14,285	+2.2%	+312	100.0%

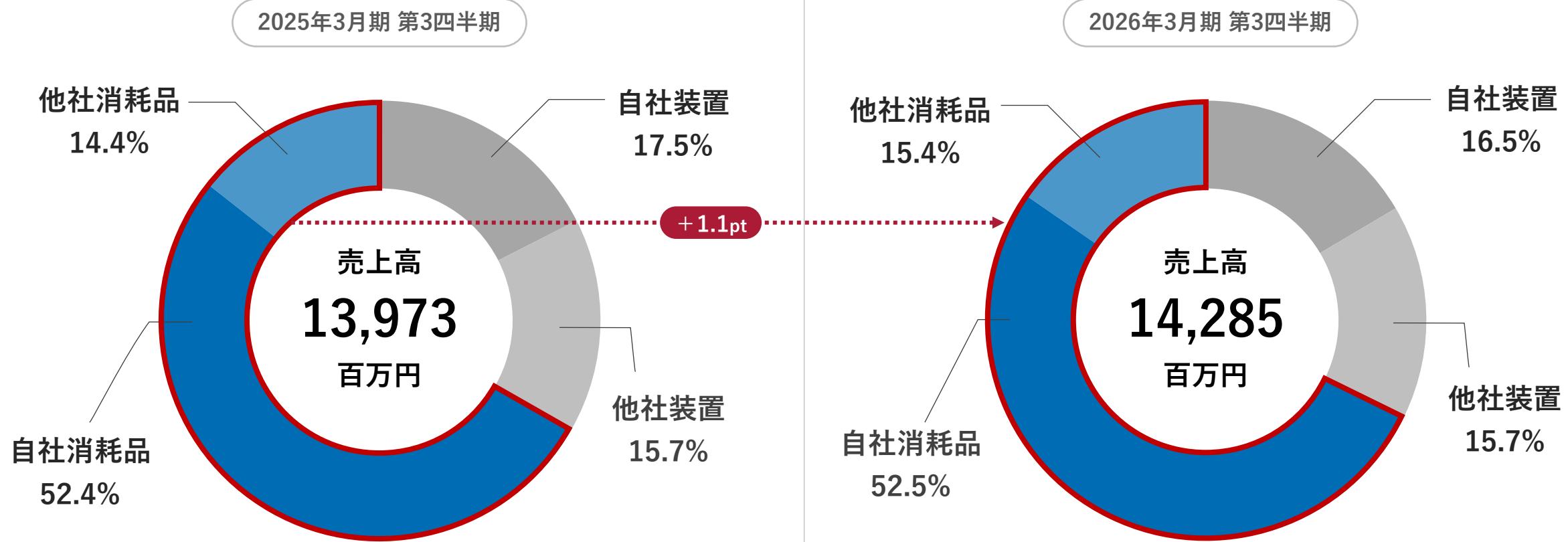
国内販売の売上計上タイミングによる季節性のため、下期偏重の傾向
3Qにおける自社消耗品の特需もあり、前年同期比にて営業利益は大きく改善

単位：百万円

■ 売上高 ○ 営業利益

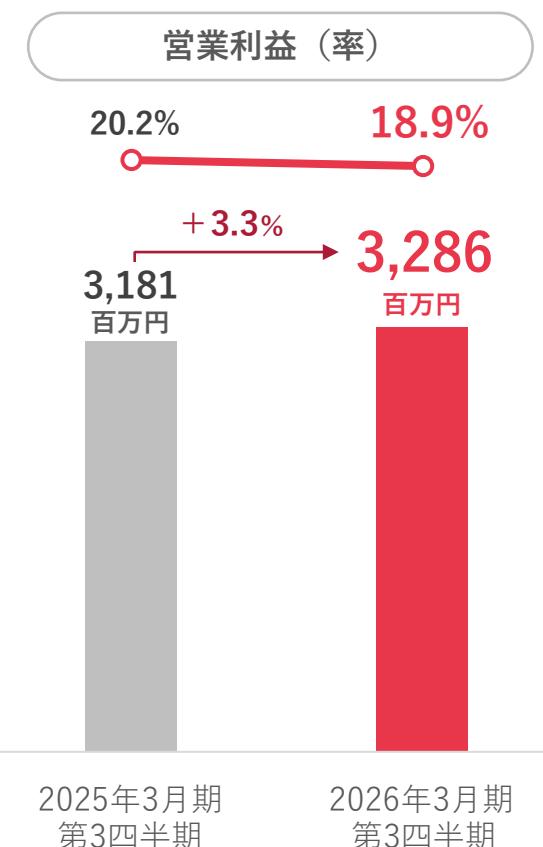
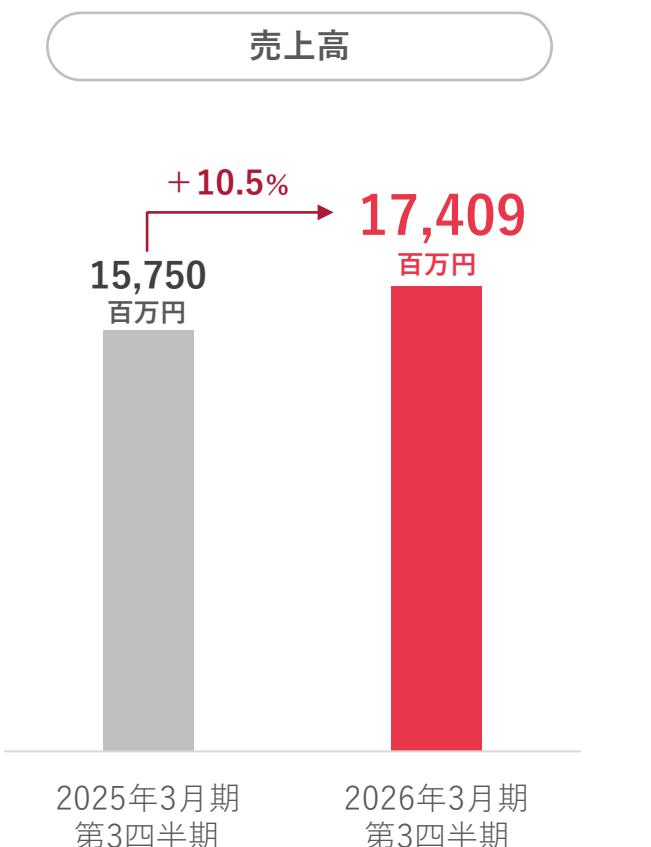


当事業は、消耗品販売を中心とした安定的な収益構造で、消耗品が売上構成の約7割を占める
今期は、国内市場向けの販売施策が奏功し、他社消耗品の販売も堅調に推移



増収・増益

- ・ 売上高は、豊富な受注残高と工場の高稼働率を背景に、前年同期比10.5%の増収
- ・ 営業利益は、前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更や、物価高によるコスト増の影響があり、営業利益率としては低下したものの、増収効果により前年同期比3.3%の増益



要因・その他

<直近の市場動向>

- ・ 生成AI関連製品の需要は引き続き拡大傾向。パソコンやスマートフォン、自動運転向けの需要は依然として低調なもの、一部ではデバイスの価格高騰や品薄感も見られ始めている。

⇒受注状況は回復基調へ

<今後の需要拡大に向けた対応>

- ・ **高付加価値製品**の開発と拡販によるマーケットの拡大
- ・ 国内外での**増産体制構築**のための準備

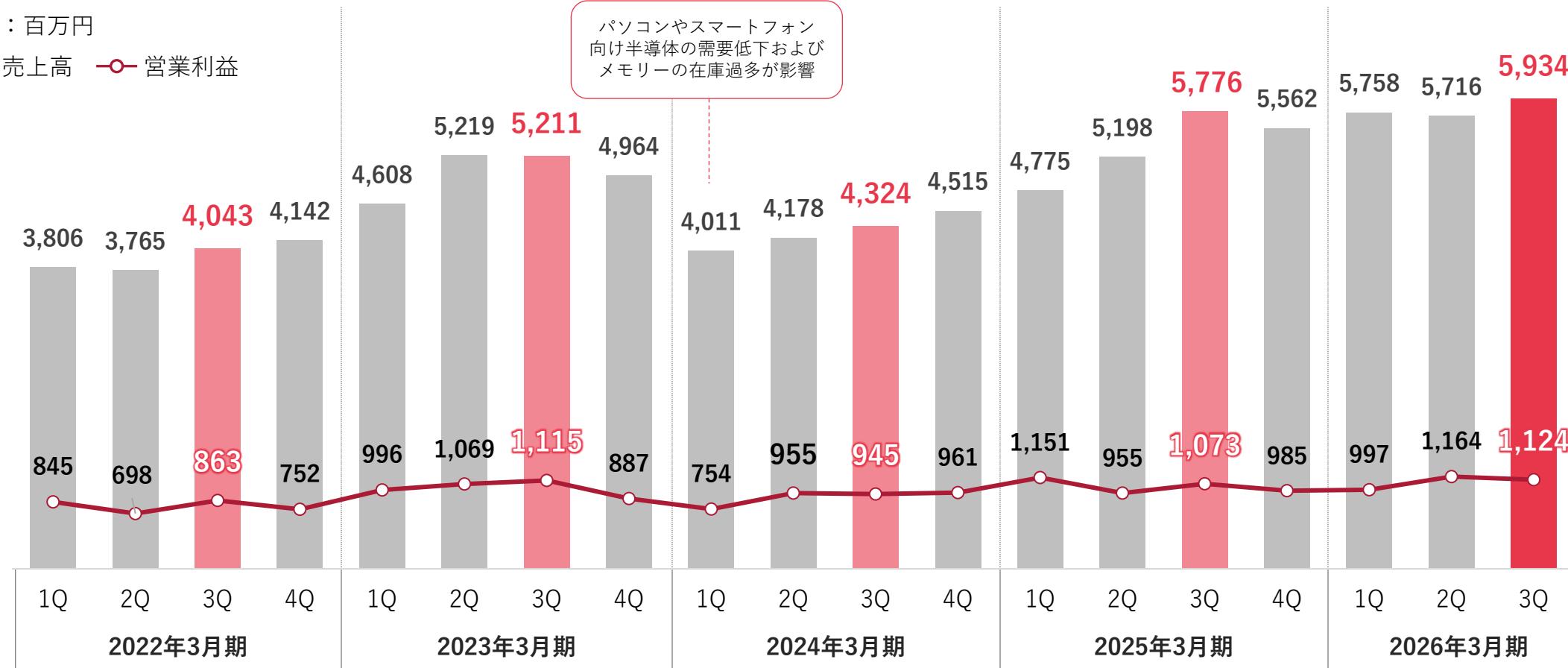
海外需要の拡大が全体成長を牽引し、売上構成比は海外が6割超に拡大
 国内も新規需要の掘り起こしにより、前年同期比で安定的に推移

単位：百万円	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比		2026年3月期 第3四半期 構成比
			増減率	増減額	
国内	6,306	6,378	+1.1%	+71	36.6%
海外	9,443	11,030	+ 16.8%	+ 1,586	63.4%
北米	678	818	+ 20.7%	+ 140	4.7%
アジア	8,744	10,168	+ 16.3%	+ 1,423	58.4%
その他	20	43	+108.7%	+22	0.3%
合計（国内+海外）	15,750	17,409	+10.5%	+1,658	100.0%

営業利益率は2Qからはやや低下したものの、回復基調の事業環境を背景に、
売上高・営業利益ともに高水準で推移

単位：百万円

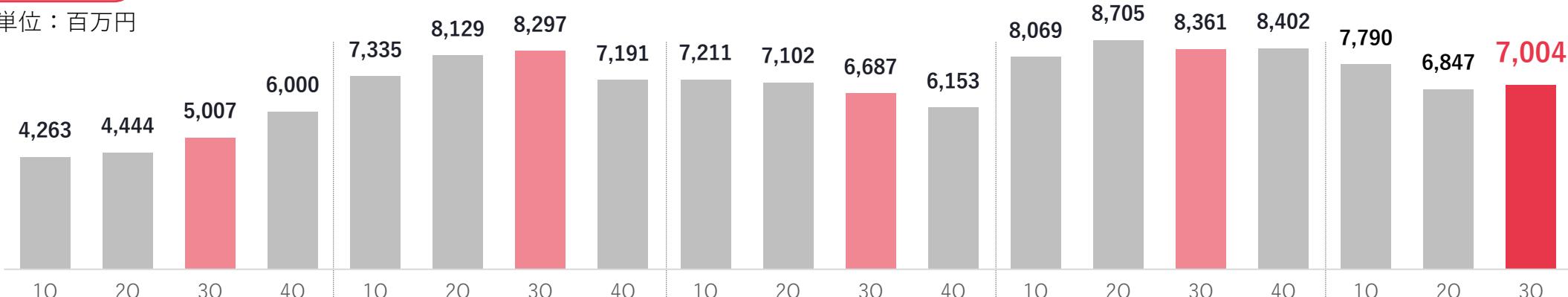
■ 売上高 ○ 営業利益



受注状況は回復傾向にあり、3Qの受注高は1年半ぶりに60億円を超え、受注残においてもやや増加

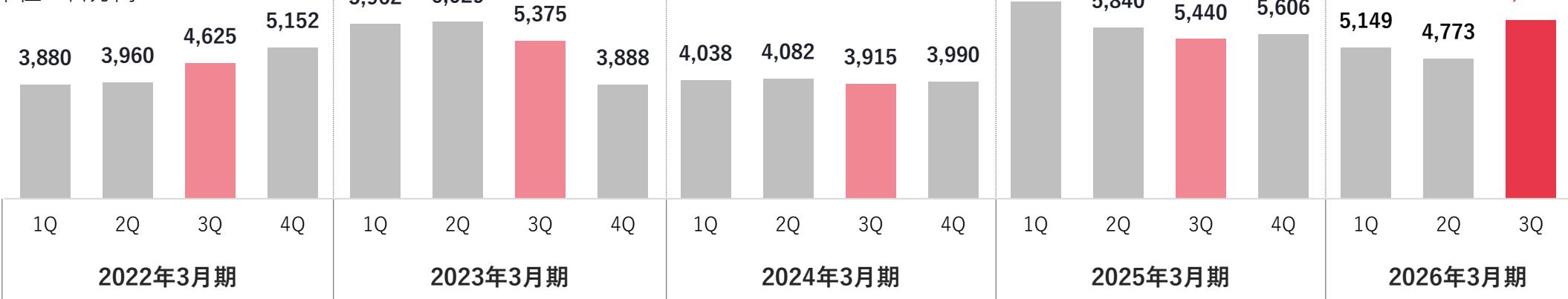
受注残

単位：百万円



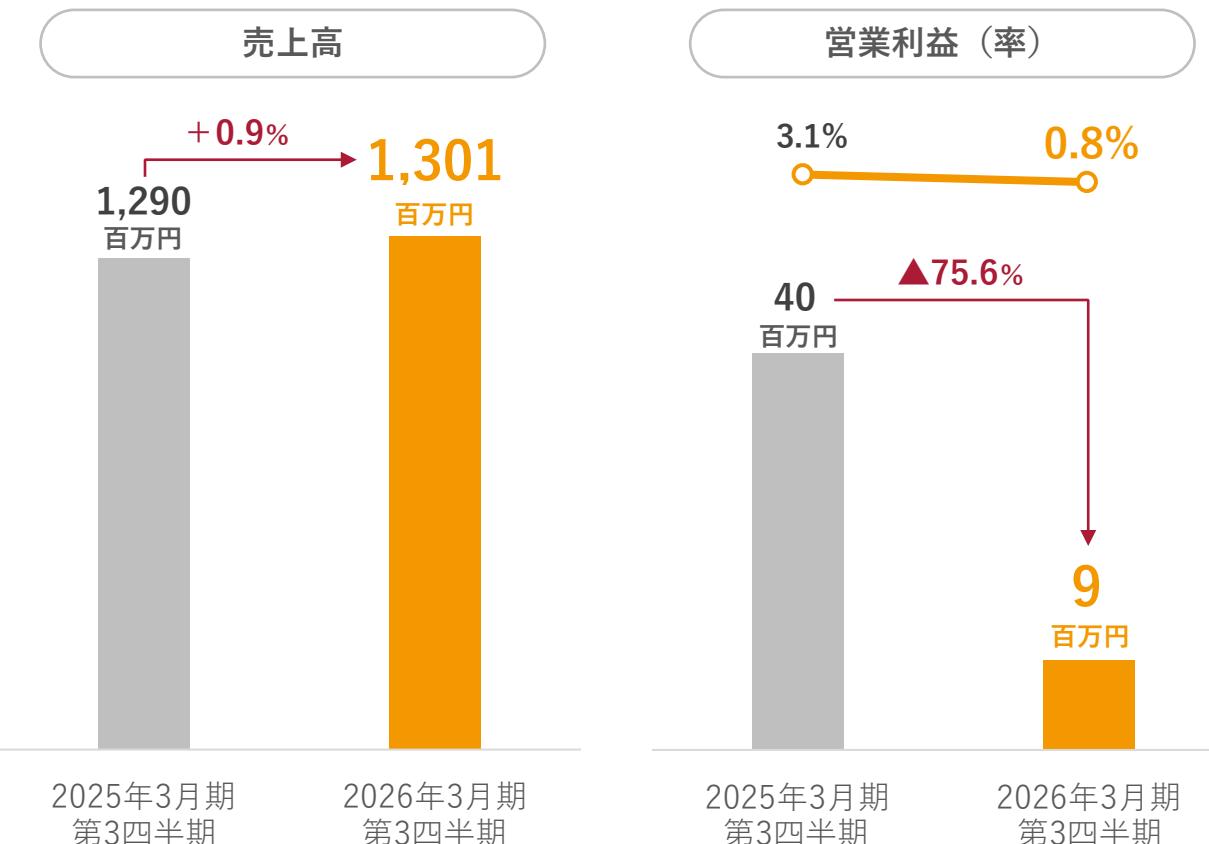
受注高

単位：百万円



増収・減益

- ・ 売上高は、立体駐車場向けシステムの開発案件や入退室管理システムの導入・販売が順調に進み、前年同期比0.9%の増収
- ・ 営業利益は、売上構成比における低利益率案件の比率が高い状況が続いている関係で減益



要因・その他

<製品分類別状況>

- ・ **機器組込製品/完成系製品**
住居関連施設やビル施設向けの需要減少が続き、伸び悩み
- ・ **自動認識用その他**
各種システム案件の他、住居向け特注ICタグ販売も好調に推移

<利益面について>

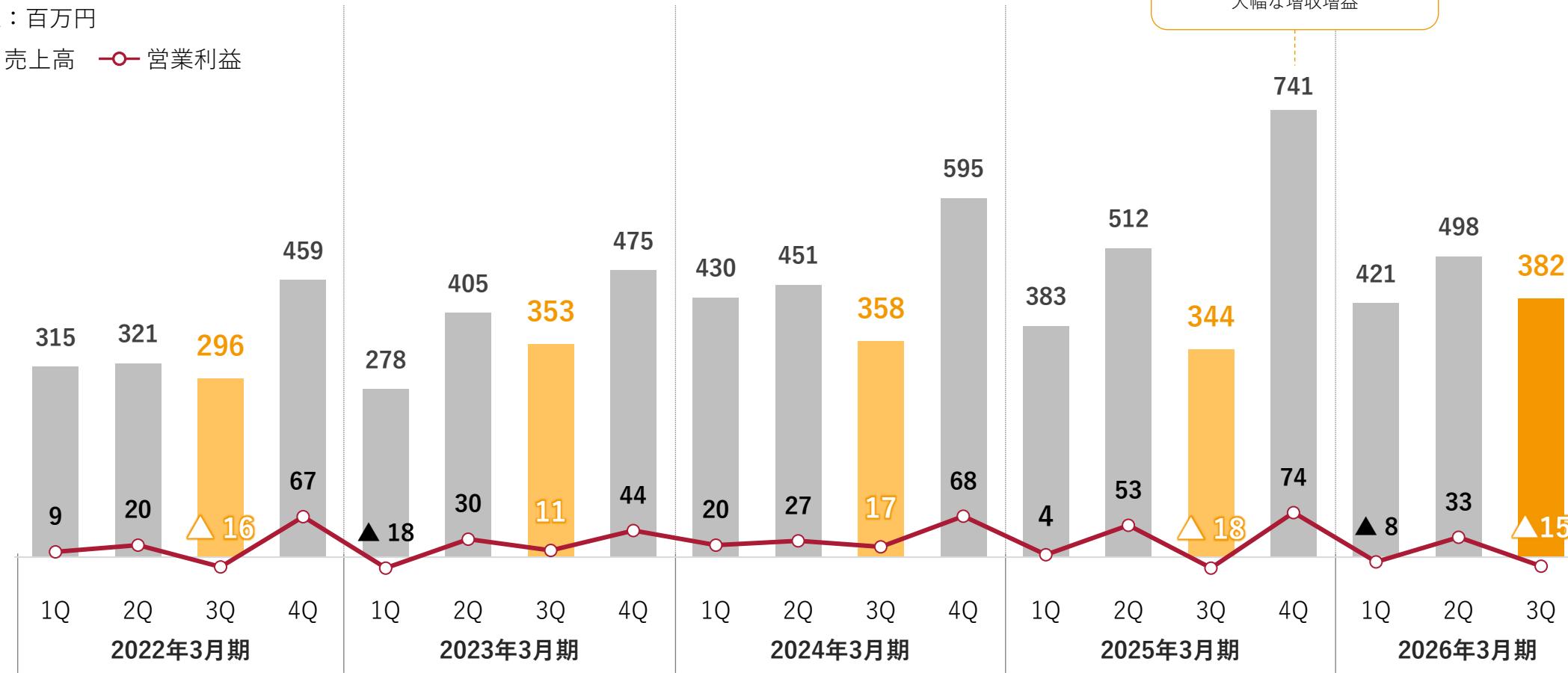
- ・ 収益性の高い製品群が低調な状況が続いているものの、今後の回復・拡大に向け、複数の機器組込製品の開発案件を推進

売上高は堅調に推移したものの、案件構成の影響により、1Qに続き営業損失を計上

単位：百万円

■ 売上高 ● 営業利益

期末に受注が集中したこと、
大型案件の受注により、
大幅な增收増益



03. 業績・配当予想

2026年3月期

通期業績予想は前回発表時から変更はなく、 前期比増収・増益の見込み

単位：百万円	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想※	前期比	
			増減率	増減額
売上高	43,261	44,700	+ 3.3%	+ 1,438
営業利益	6,344	6,680	+ 5.3%	+ 335
営業利益率	14.7%	14.9%	-	+0.2pt
経常利益	6,626	6,760	+ 2.0%	+ 133
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,064 ^{※1}	4,810 ^{※2}	+ 18.3%	+ 745
年間配当（円）	107	111	+ 3.7%	+ 4

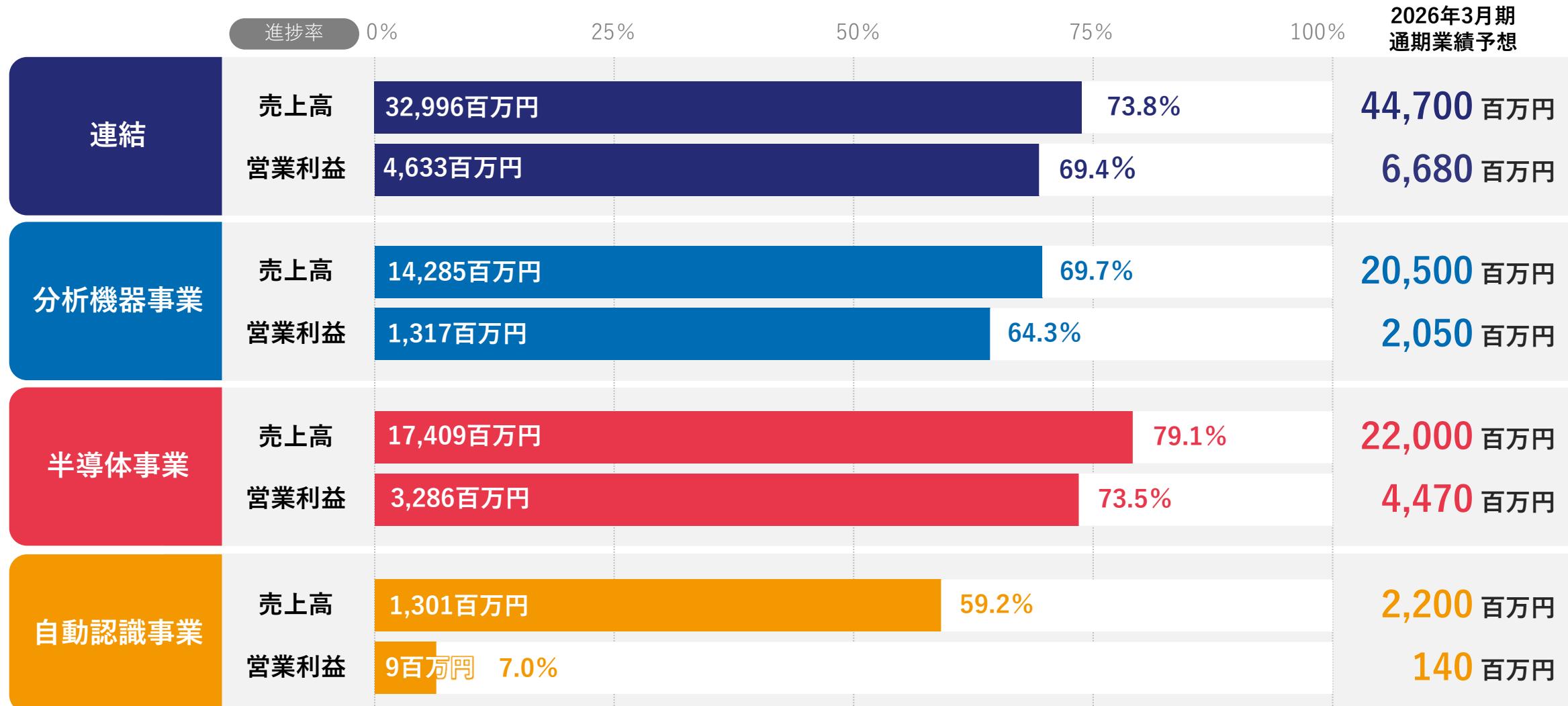
※1 経営統合前の上期は一部が非支配株主に帰属

※2 通期で100%が親会社に帰属

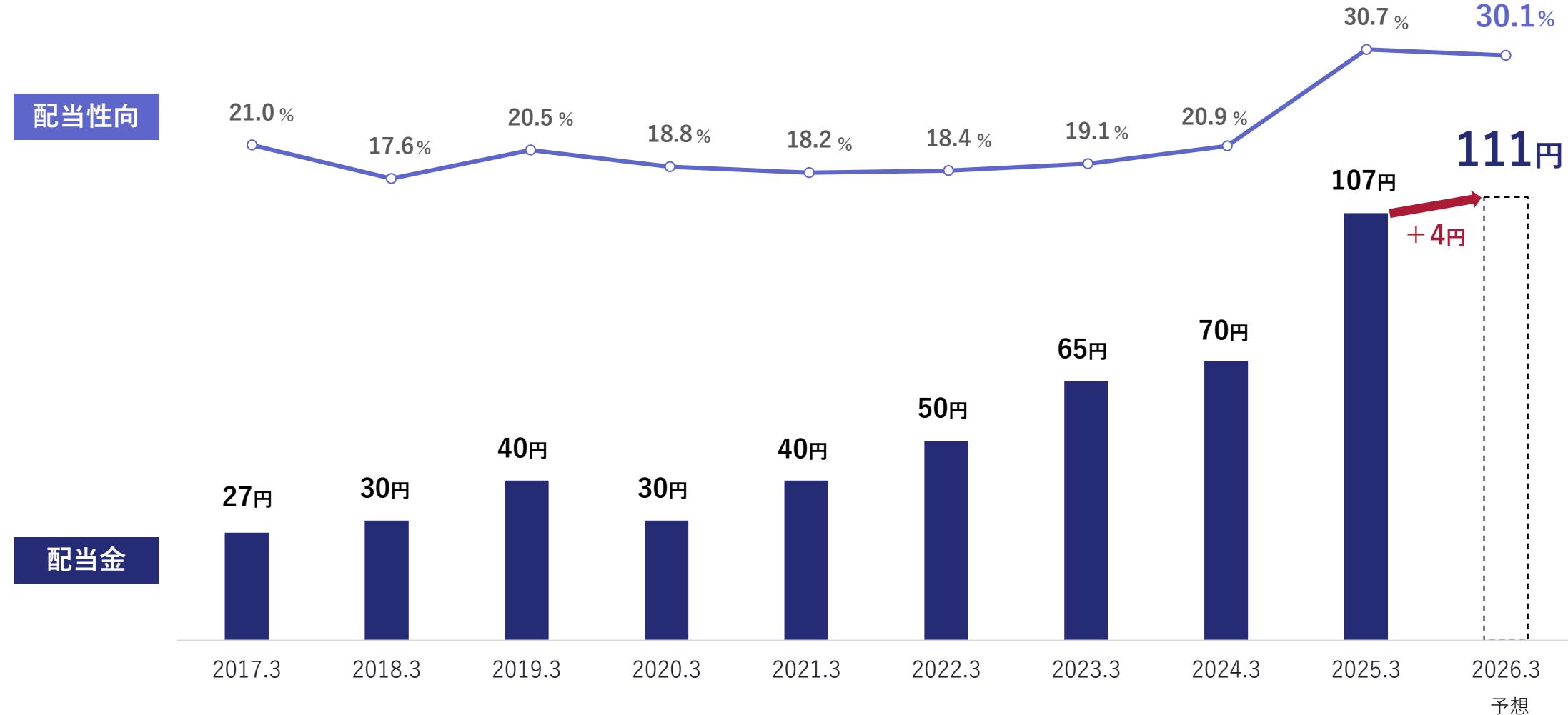
※ 想定為替レート：1米ドル = ¥150

	単位：百万円	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想	前期比	
				増減率	増減額
分析機器事業	売上高	19,965	20,500	+2.7%	+534
	営業利益	2,045	2,050	+0.2%	+4
	営業利益率	10.2%	10.0%	-	▲0.2pt
半導体事業	売上高	21,313	22,000	+3.2%	+686
	営業利益	4,167	4,470	+7.3%	+302
	営業利益率	19.6%	20.3%	-	+0.7pt
自動認識事業	売上高	1,982	2,200	+11.0%	+217
	営業利益	115	140	+21.6%	+24
	営業利益率	5.8%	6.4%	-	+0.6pt

自動認識事業の営業利益は厳しい状況であるが、連結の業績としては概ね例年並みに推移



目標である配当性向30%を維持、2026年3月期は4円増配の見込み



04. APPENDIX

会社名 ジーエルテクノホールディングス株式会社

設立 2024年10月1日

代表取締役社長 長見 善博

本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号

資本金 300,000千円

連結従業員数 1,192名（2025年3月31日現在、パートタイマーを除く）

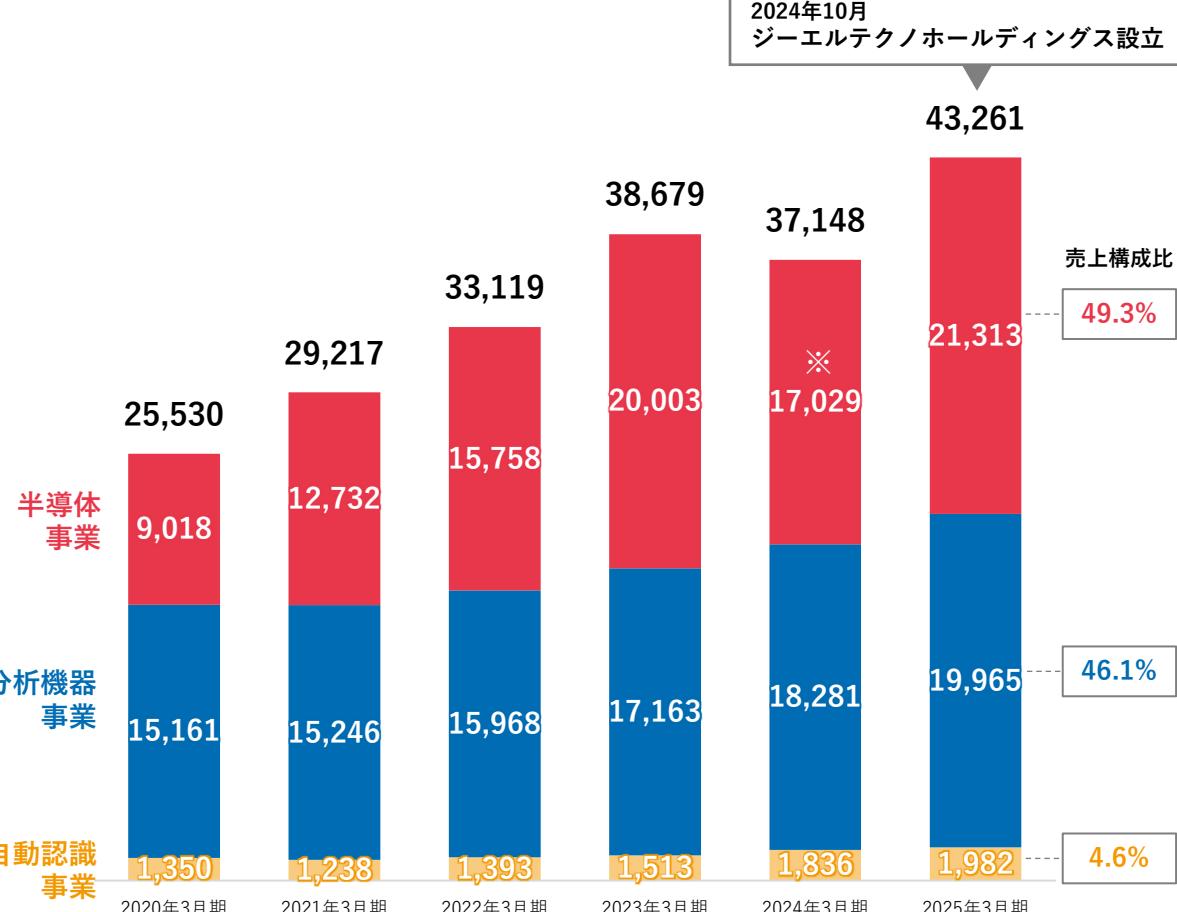
連結売上高 43,261百万円（2025年3月期）



社会を支える3つの事業で築く堅実な成長基盤と売上・利益成長

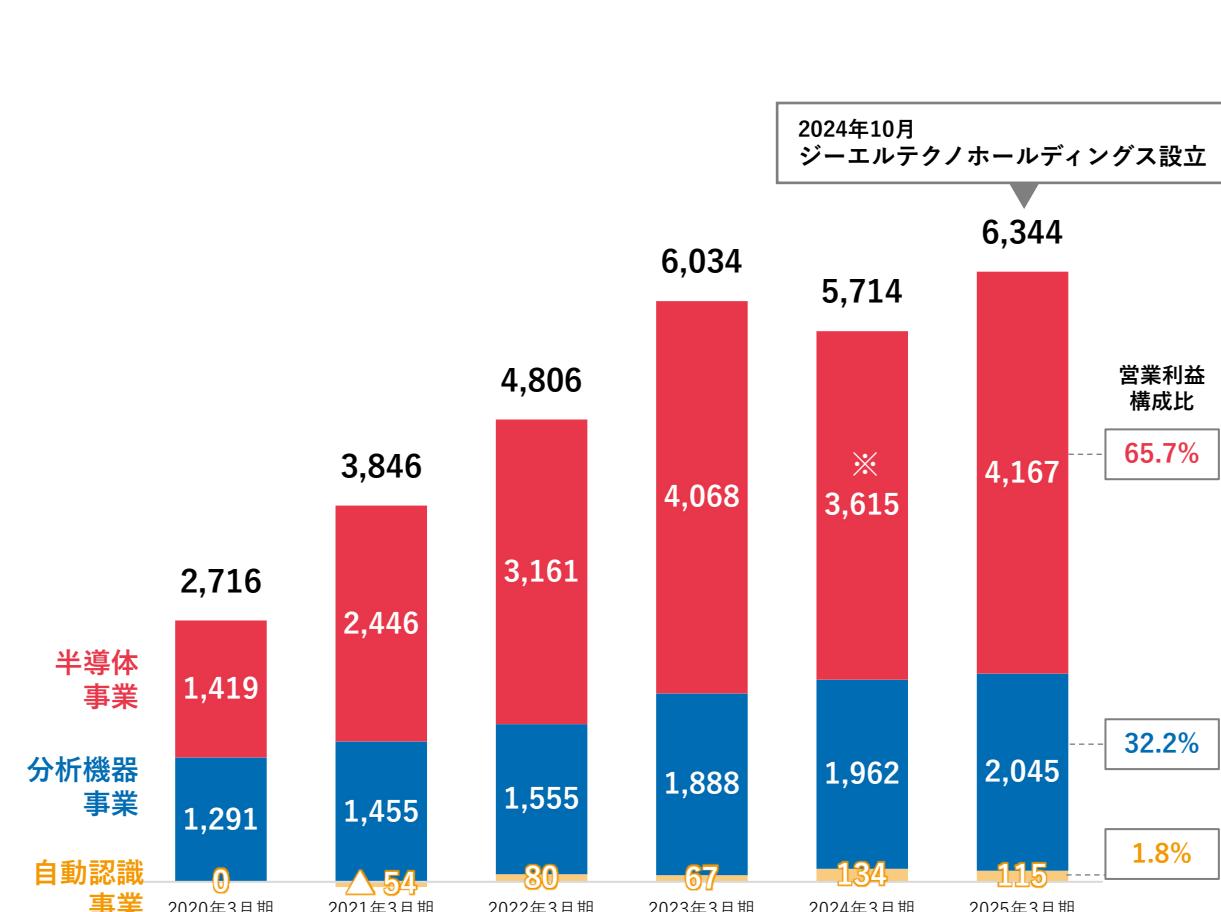
セグメント別 【売上高】推移

単位：百万円



セグメント別 【営業利益】推移

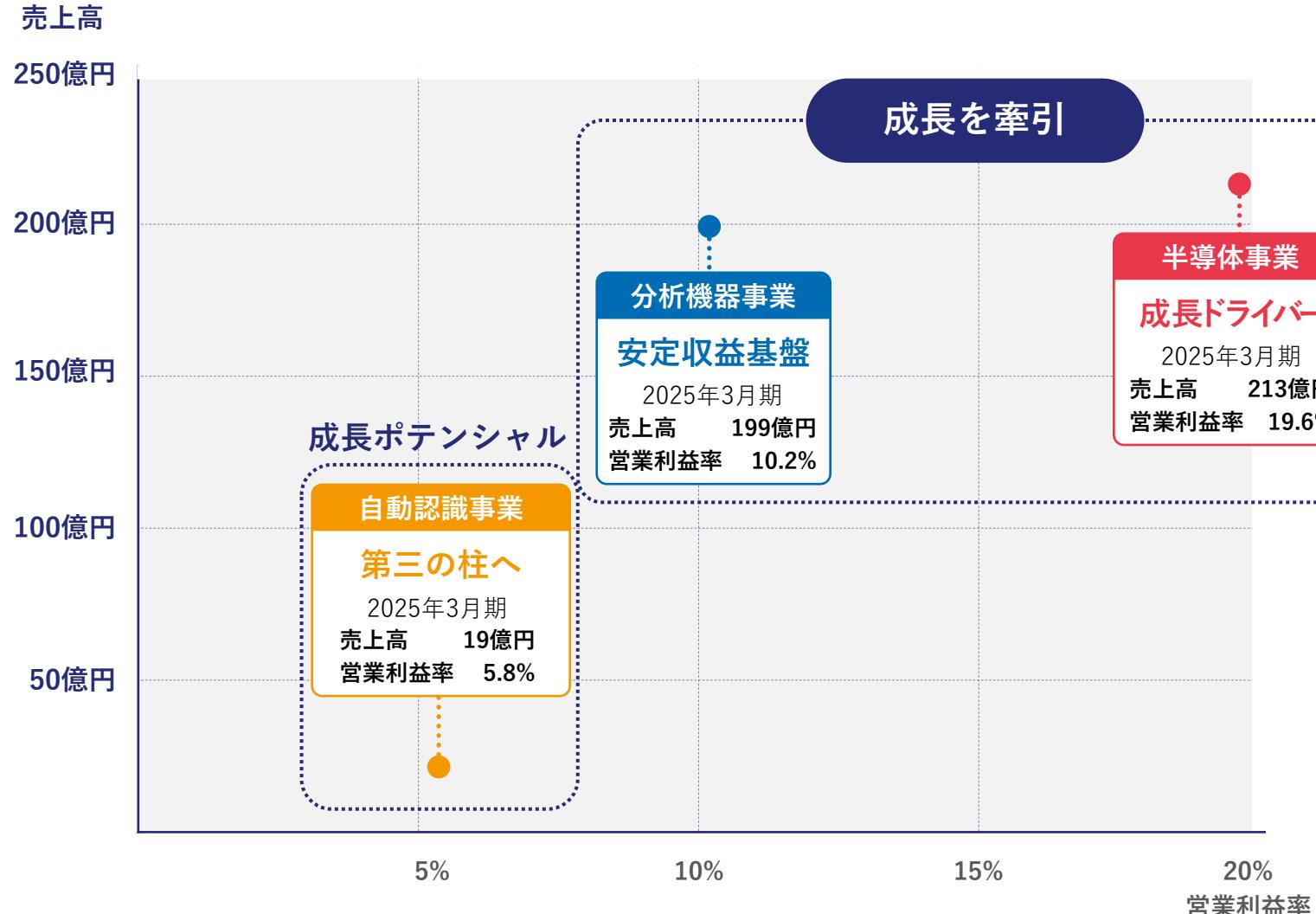
単位：百万円



※ 2024年3月期 半導体事業売上高は、パソコンやスマートフォン向け需要の減退に伴うメモリ在庫の停滞の影響で減収減益

© GLTECHNO HOLDINGS, INC. 27

“安定の分析機器事業”と“成長の半導体事業”的ダブルエンジンで着実な収益拡大を目指す



分析機器事業

ジーエルサイエンス株式会社

分析装置や、その装置に欠かせないカラムなど各種消耗品の企画、開発、生産、販売、サポートまでを一貫対応

Point 景気の波に左右されにくく堅実に成長

半導体事業

テクノクオーツ株式会社

半導体製造装置用の高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツを主力とした半導体関連製品の製造・販売

Point 半導体製造装置の稼働量と急伸を背景に大きく成長

自動認識事業

ジーエルソリューションズ株式会社

ICタグの情報を非接触で読み書きする「自動認識技術(RFID)」のパイオニア企業として、関連製品を製造・販売

Point IoTが各分野に浸透していく中でニーズが拡大

[ミッション]

存在意義

人と社会の可能性を触発する

ジーエルテクノグループは、創業当初より「信頼し合える仲間が集まり、人がこの世に生まれた意義を追求すること」を根本精神としており、組織の成り立ち自体が、人がもつ可能性を触発する挑戦でもあったといえます。自らの成長のみならず、産業や社会の発展の可能性をも触発する存在でありたい。その思いは今も変わることはありません。私たちは創業の理念を受け継ぎ、その使命に向かって挑戦し続けます。

[ビジョン]

将来目指す理想の姿

枠にとらわれない自由な価値創造に挑戦する

ジーエルテクノグループは、創業より半世紀を超える歩みを重ねてきましたが、前例や既成の事業領域に縛られることなく、グループを構成する一人ひとりが自身で思考しながら、新しい価値創造に取り組んでいきます。

[コーポレートメッセージ]

企業メッセージ

Search for a Way

次のイノベーションのそばに。

お客様のために、社会のために。そして自分たちの成長に向けて、常によりよい手段・手法を探し続けていきます。いつの時代も科学の発展と人々の暮らしを支え、社会に貢献していきます。

経営統合により成長機会を捉え、投資判断スピードを加速。さらなる企業価値向上を目指します。



(2024年10月設立)

経営効率の向上

最適な経営資源配分

意思決定の迅速化

ジーエルサイエンス株式会社

(1968年設立)

分析機器事業

クロマトグラフィーの技術であらゆる分析を支える

分析装置とカラムなど消耗品の企画・開発から販売・サポートまで一貫対応し、多様な産業の成分分析を幅広く支えています。



クロマトグラフィー関連消耗品



ガスクロマトグラフ 試料前処理装置

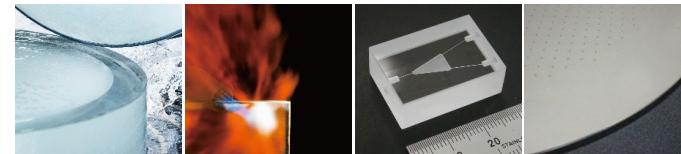
テクノクオーツ株式会社

(1976年設立)

半導体事業

最先端の加工技術で世界の半導体製造を支える

半導体製造装置向け高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツの製造販売を主力に、高品質なモノづくりに取り組んでいます。



機械加工

火炎加工

拡散接合

シリコン加工

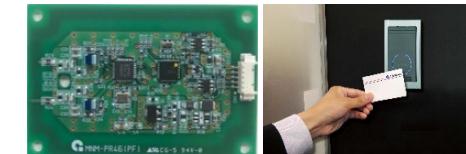
ジーエルソリューションズ株式会社

(2013年設立)

自動認識事業

非接触ICカード技術でより快適な社会を実現する

非接触でICタグを読み書きする自動認識技術（RFID）のパイオニアとして、先端技術を駆使し情報化社会の進化に貢献しています。



機器組込型リーダライタ

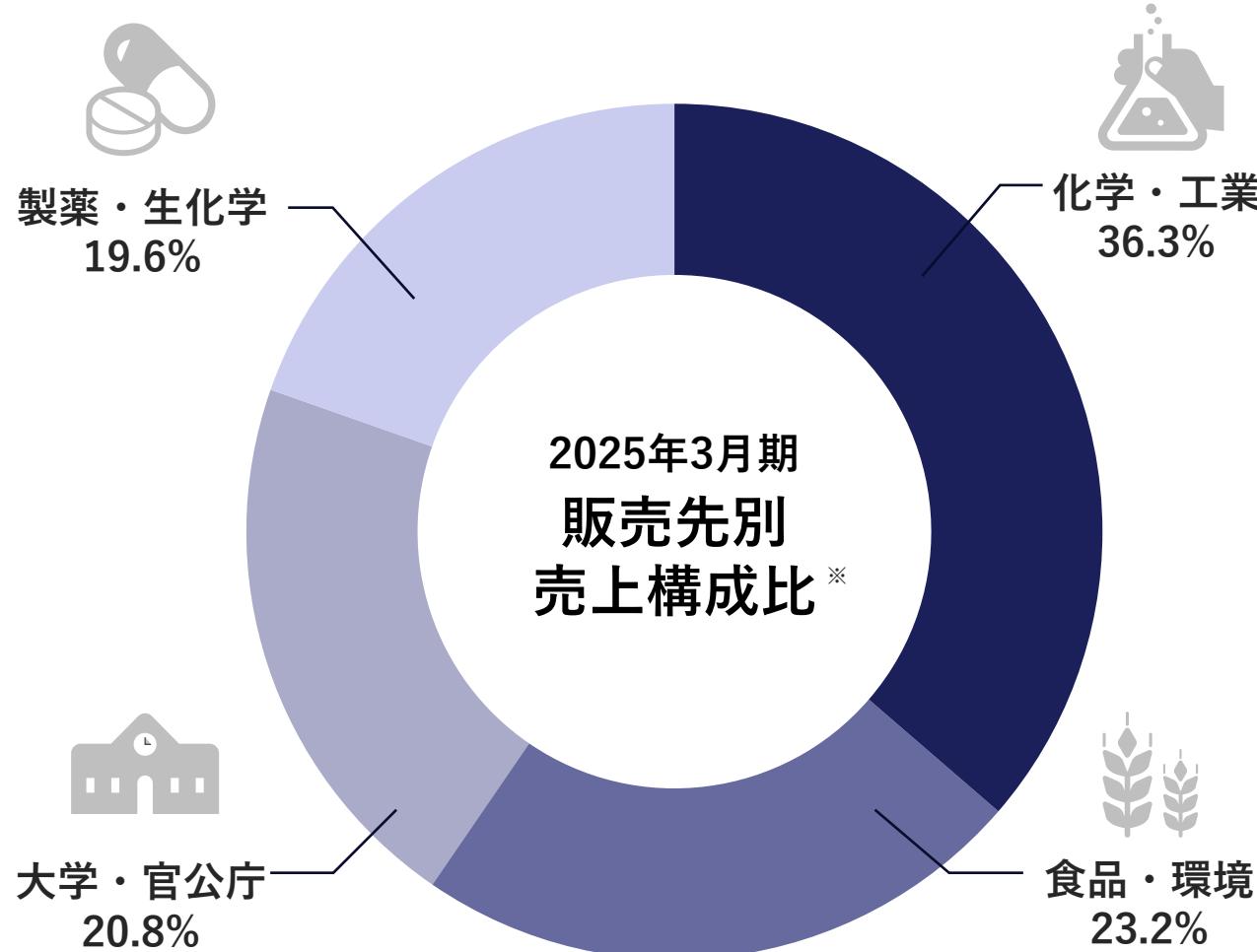


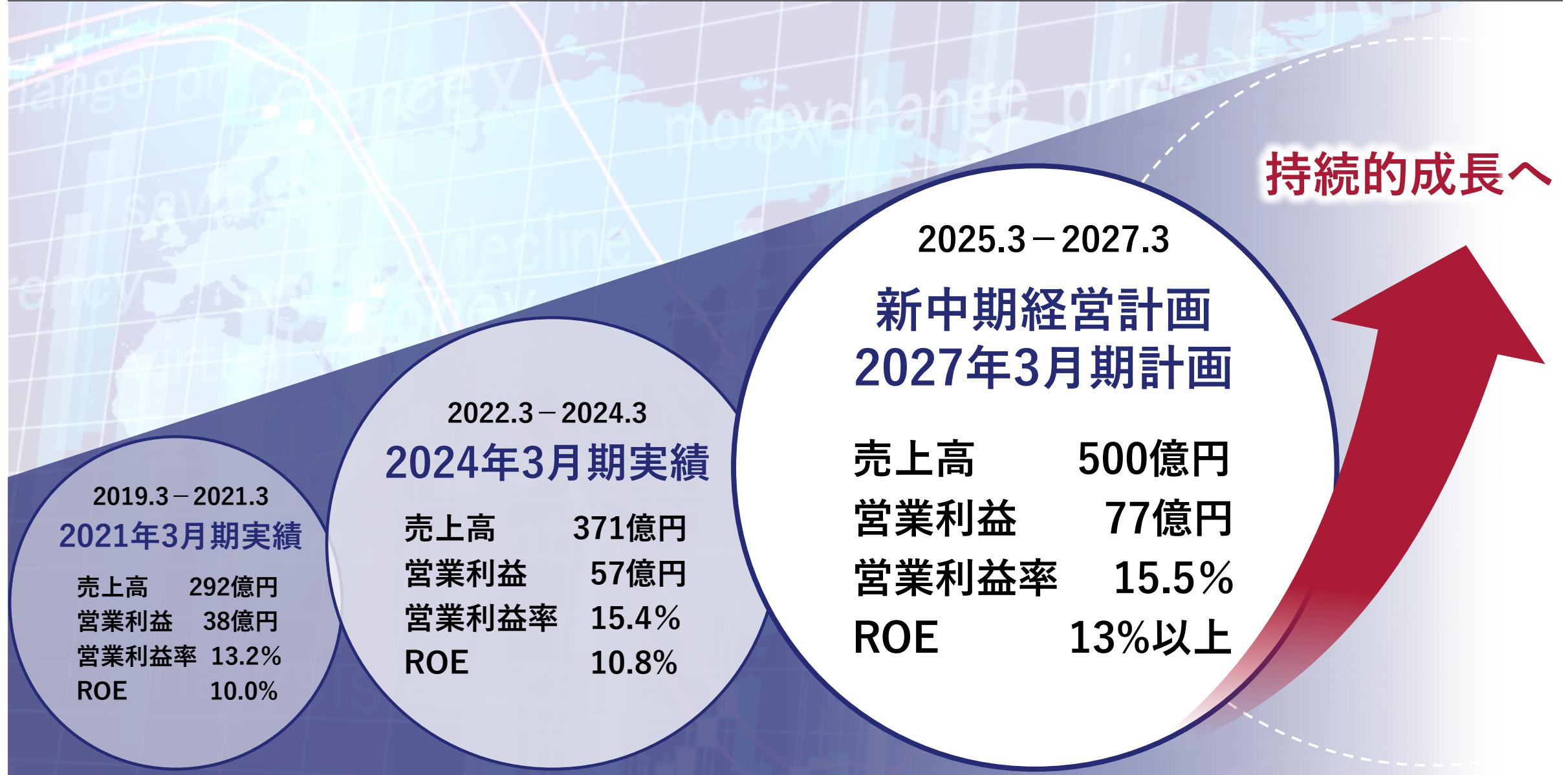
壁付型リーダライタ



鍵管理ボックス

当社の安定的成長を支える分析機器事業は、幅広い分野で社会に貢献





NETWORK 世界に広がるグループネットワーク

ジーエルテクノホールディングス株式会社

ジーエルサイエンス株式会社

東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
設立 1968年2月

株式会社フロム

株式会社グロース

技尔（上海）商贸有限公司

GL Sciences B.V.

GL Sciences, Inc.

テクノクオーツ株式会社

東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー12F
設立 1976年10月

アイシンテック株式会社

杭州泰谷諾石英有限公司

GL TECHNO America, Inc.

TECHNO QUARTZ VIETNAM CO., LTD.

ジーエルソリューションズ株式会社

東京都台東区松が谷1-3-5 上野イーストビルG1
設立 2013年4月



基本理念

ジーエルテクノホールディングスは、『真に社会性のある企業への成長』という「企業理念」のもと、社員が働くことへの幸せを感じる環境作り、持続的企業発展のための創造や挑戦、製造改善や新技術による環境問題への取組を通じた社会貢献を行っていきます。また、得られた利益は「会社・株主・社員・社会」に公正に分配し、技術や利益をもって「地球と社会の持続可能な発展」へと貢献します。『道は一つ、共に進もう』を永久スローガンとし、ステークホルダーと共に社会課題解決に取り組んでいきます。

基本方針

①持続的な企業価値の向上

変わり続ける事業環境の中で、レジリエンスを高め柔軟に対応することで、競争力および生産性の向上を実現します。

②環境保全への貢献

気候変動への対応、循環型社会への取組など、ステークホルダーとの協働・共創を推進し、より良い未来の実現を目指します。

③事業を通じた社会課題の解決

本業の活動を通じて、社会貢献を持続的に推進します。

④企業活動を支える人材の育成と活躍の推進

お客様の課題解決のために挑戦を続け、社会に貢献できる人材を育成しやりがいと誇りをもって安全・健康に働くことができる環境を提供します。

⑤ガバナンス体制の強化

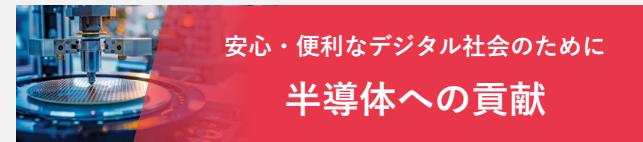
法令をはじめとした社会のルールを遵守するだけではなくすべてのステークホルダーからの期待に応えるよう努めます。

製品・サービスの提供を通して、 健康で安全・安心な暮らしを支えます。



カーボンニュートラル社会に向けて 環境評価技術への貢献

次世代エネルギー やカーボンニュートラルの分野では、研究の成果を評価したり、エネルギー効率を判定するために、水素やアンモニアなどの分析が必要となります。ジーエルサイエンス株式会社は、お客様のニーズに応じたオーダーメイドの特注装置を開発・製造・販売することで、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献しています。



安心・便利なデジタル社会のために 半導体への貢献

半導体はインフラ整備や安全保障にも大きく貢献しており、私たちの生活に欠かせない存在です。その半導体製造装置の部材には、熱に強く薬品に侵されにくい素材が使われています。テクノクオーツ株式会社は、加工が難しい素材を、高い精度で加工した部材を提供することで、安心・便利な社会の実現に貢献しています。



より健康に生活できる社会に向けて PFAS分析への貢献

有機フッ素化合物(PFAS)は、フッ素系の撥水剤、防水剤、グリースなどに使われており、分解されにくく環境中に長く残ると言われている物質です。ジーエルサイエンス株式会社は、水道水、飲料水、排水、食品中のPFAS分析に関する製品・サービスを提供することで、健康で安心な社会に貢献しています。



もっと安全・安心が守られる社会へ デジタル活用への貢献

マイナンバーカードは、身分証明書として使えるだけでなく、自治体サービスやe-Taxなどの電子申請にも利用できるカードです。ジーエルソリューションズ株式会社は、電子申請や健康保険証利用時にデータを読み込む機器を提供することで、安全で便利なデータ共有ができる社会の実現に貢献しています。



Search for a Way

次のイノベーションのそばに。



ジーエルテクノホールディングス株式会社
〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1
TEL : 03-4212-6677
URL : <https://www.gltechno.co.jp>

免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点での入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権は、ジーエルテクノホールディングス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。